

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4370104855		
法人名	社会福祉法人 リデルライトホーム		
事業所名	グループホーム カムさあ		
所在地	熊本県熊本市龍田陳内3丁目37-7		
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果市町村受理日	平成26年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	平成25年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人は社会福祉法人リデルライトホームが運営している。カムさあは、小高い山の上にあり、新興住宅地でありながらも自然も豊かにあり居住場所としてはより良い環境である。室内は全てバリアフリーになっており、洋室9室の1ユニットで運営している。基本運営理念として「その人らしく」「自己決定」「自己実現」「だれからも拘束されない」などを掲げ、その方らしく生きることのできる施設運営に取り組んでいる。最後までその人らしく生きること支援しながらも、ご家族の絆を大切にすることをケア理念にしています。ご本人のペースで自分らしく暮らしていただけるよう、主治医と連携を図りながら、ご希望があれば看取り介護の実践にも取り組んでいます。地域交流にも力を注ぎながら地域の理解を深め、認知症を患っても尊厳をもった生き方を支援することができる施設運営を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デンマーク語のカムさあの意味する『ようこそいらっしゃい』のホーム名のように、ゆったりとした時間の中で過ごす入居者や関わる職員の表情が来訪者を迎入れてくれる。この一年も地域との変わらぬ交流が継続されている事は、揺るぎない「愛と奉仕の精神」により、近隣・地域の方々の信頼を深め協力体制へと繋がっている。法人全体で取り組む研修体制や、産休など職場を離れていても、管理者は職員へ研修報告を行い、心配なく職場復帰の出来る環境や、働きやすい職場整備は職員の志を高め、離職の無い環境に繋がっている。これまでご縁のあった入居者・家族への変わらぬ感謝の思い、『今この時』を過ごされている入居者、支えておられる家族に対して、全職員が愛情を持って関わっている事に、訪れた者は安心して家路に着くことが出来るホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員理念と運営理念に分かれており、日々、職員や入居者・ご家族が目にするよう掲示している。入居者が生活の中で自己決定できるように支援しながらも自分らしく暮らすことができるよう、職員一丸となりケアを行っている。ケアの方針で迷うことがあれば、理念に立ち返りケアするように努力している。	リデルライト両女史の基本理念「愛と奉仕の精神」をもとに作られた運営方針や、理念は誰のためにあるか？の考えから、入居者にわかりやすいものであることが大切であり、職員の姿勢となる理念が作成されている。管理者は、入居者の個(ひとり)と共に、関わる職員の個(ひとり)も尊重していくことの大切さを語っており、カムさあの意味する『ようこそいらっしやい』は、関わるすべての人々に思いが込められている。理念は職員だけではなく、入居者や家族をはじめ、訪れる人々が立ち止まり目を向けてもらえるよう、掲示の仕方にも工夫を行うなど、理念の共有、啓発への取り組みが窺える。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	生活は施設の中だけで完結しないようにケアを実践している。体調に合わせ訪問理容のみでなく、地域の理容室に向き、買い物は地域のお店を利用するなど、地域のみなさんと日常的なあいさつの中に止まらないようにしている。消防訓練や地域行事・子ども会の廃品回収などに参加することで地域とのつながりを大切にしている。また、自治会にも加入させていただき、回覧板を活用し情報の発信などにも活用している。	地域の中で暮らすことの意義や重要性を踏まえ、開所時から一つひとつの取り組みが実践されている。自治会への加入から回覧板を活用した情報発信や子ども会との交流、地域商店の利用、認知症を理解し貸し切って理髪を行ってくれる理容店など、多くの交流が今では『馴染みの生活・交流』になっていると言える。	管理者は日頃から職員に、「地域の右をみて！左を見て！」と、地域の中の事業所の意義を伝え、今回の訪問でも更に地域貢献への熱い思いが表れていた。ホームの更なる取り組みに期待が持たれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に行っているケアの積み重ねを、運営推進会議の場を利用し認知症の理解や接し方及びケアの方法を話し合っている。また、消防訓練の際に地域消防団の方にも参加してもらい、実際に認知症方と接する機会を設け取り組んでいる。			

4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、自己評価・外部評価を配布し、職員が回答した内容や課題を項目別に報告している。また、率直なご意見をお聞きできる良い機会であると共に、ご意見をサービス向上に活かす取り組みを継続したい。</p>	<p>推進会議に参加しなかった者も、議事録を開けば二ヶ月間の取り組みや、これまでのホームの歩み、会議の様子が理解できるような記録となっている。開所時からの入居者が参加メンバーになって代表して委嘱状を交付されている姿や、同じく開所時から町内の消防団として尽力くださった方が、地域代表者としてメンバーになられるなど、入居者・家族・地域が一体となった有意義で温かな会議となっている。外部評価についても自己評価をはじめ評価の流れや結果がパワーポイントを使って説明されている。</p>	
5	(4)	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議開催の際、地域包括支援センターの職員に参加していただき、地域の課題を自治会長や民生委員の方々などと話し合いの場を設けている。また、運営に関することは、熊本区役所の担当者を確認するなど、気軽に相談している。又、介護サービス支援員の方に月1回来て頂き、サービス向上に努めている。</p>	<p>介護保険であるサービスは市町村・行政との連携や信頼関係が重要であり、管理者は運営に関する相談は電話だけではなく、直接役所を訪れ担当者に相談するなど良好な関係が構築されている。また、推進会議の中では包括職員に地域の課題を相談しながらアドバイスを受けている。この四月には地区に介護サービス事業の連絡会が立ち上がっている。</p>	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については、毎月身体拘束廃止委員会の中で、身体拘束が事業所で行われていないかお互い確認をして、法人全体で身体拘束がないケアを行っている。定例的な勉強会を行い、安全に暮らすことができる環境づくりに努めている</p>	<p>多くの職員が研修会に参加できるよう、年二回同内容で拘束に関する研修会を開催する他、研修をDVDに撮り活用している。また、毎月、身体拘束廃止委員会を開催するなど法人全体で拘束のないケアの実践に取り組んでいる。入居者が安心・安全に暮らすために、ホーム内でも、職員は自身のケアを振り返り、気になる点はその都度管理者より指導が行われている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は職員会議や研修会で虐待について学ぶ機会を定期的に設けている。日常的には、入浴時のボディーチェックを行い、外傷がないか皆で確認する体制になっている。また、言葉の虐待については、職員間で注意するよう日々心がけている。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、後見制度を活用されている方がおられる。認知症と権利擁護は非常に密接な関わりがあるため、ご入居の認知症の段階に合わせ、パンフレット等を用いながら説明する機会を設けている。</p>	/	/

9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、十分な説明を行うように努力しているが、一度に多くのことを説明させていただくため書面に線を引いたり、料金についても別紙を活用しご納得いただけるように説明している。契約後も疑問点やご不明な点がないか、お伺いするよう心がけている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者やご家族からのご要望についてはできるだけ対応するようにしている。また、運営推進会議などで話題にするようにしている。開かれた施設づくりを基本としている。今後も、継続した運営を行う。</p>	<p>家族の面会時にはゆっくり寛いでもらうよう、職員はお茶を出し近況を伝えながら要望を聞き取っている。介護用品についての質問や衣類交換時にサイズや好みがよくわからないなどの相談を受け、職員が買い物代行するなど、日頃の関わりの中で入居者の好みを熟知している職員だからこそできる支援である。また、毎週教会へ通われる方の支援など入居者の今後にも寄り添いながら安心される日常を支えている。</p>	
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃から職員の意見や提案を聞くようにつとめている。職員の意見は環境次第で出なくなるので、意見を言いやすい雰囲気づくりに常に心がけている。管理者は、代表者は事業運営についていつでも意見交換できる機会を設け運営に反映させている。今後も継続させ運営を進めてゆきたい。</p>	<p>職員が何時でも、意見や提案が出しやすい雰囲気心がけ、運営に反映できる体制に努めている。育休や介護休暇をはじめとした休暇取得、自分の力を発揮できる支援体制など働きやすい環境は離職の少なさにも表れている。法人代表者も定期的にホームを訪れ、入居者や職員と会話を交わしている。押しつけのない人生訓を示してくれる代表者の姿に、志が高まると職員は語っている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>やりがいや向上心を持つことができる、施設内外の研修会の他に、キャリアに合わせたキャリアアップ研修を各段階に合わせ開催している。給与については、1年毎の昇給や夏季休暇・冬季休暇・年休など取りやすい環境になっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内研修を年10回以上・その他、勤続期間に準じ初級・中級・上級職に分類し、キャリアに合わせた適正な研修内容を準備している。その他施設外研修もあり職員教育には力を注いでいる。</p>		

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域行事に参加したり、自治会を通じた交流もあり、子ども避難所の指定をもらっている。また、グループホーム協議会の熊本市ブロック会の事務局を務める他、地域ケアシステムの実施ができるようネットワークづくりに力を注いでいる</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居初期はできるだけ安心して過ごしていただけるよう話しやすい環境をつくり、できるだけ傍で話が聞けるようにしている。ご本人の意見を尊重し、安住の場となるようこれからも努力していく。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>安心してご家族をご入居していただけるよう、不安や要望等を気軽にお話いただけるよう、より良い関係が築けるよう努力している。また、ご家族の話にも耳を傾け、その方らしい生き方ができるよう今後も務める。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>その方らしく生活していただけるよう、必要とされる支援は、他サービス利用も含め、必要とされる支援に優先順位をつけながら、実施できるように努力している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>個々の個性や持ち得る力を発揮できるような関わり方を常に行っている。共に過ごすことで信頼関係を構築し、それぞれが生活の中に役割をもつことができる関係づくりを心掛けている。また、支援する一方ではなく心が通う関係づくりを心掛けている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご本人にとって家族は大切な方であることを職員は理解している。面会時は、ゆっくり過ごしていただけるよう日頃よりご家族の絆を大切にできるよう心掛けている。また、近況をご報告し、ご要望を聞きながら共に支え合う関係づくりを努力している。</p>		

20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>職員は、ご本人がこれまでに大切にしてきた方や場所を断ち切らないことを理解している。また、大切な物や気持ちも途切れないような環境づくりをしている。ご家族・職員付き添いで馴染みにの場所に出かける支援もしている。これからも続けてゆきたい。</p>	<p>入居者にとっての馴染みの生活や人・物などを全職員で共有し支援している。居室環境から食事提供をはじめ、個々に応じた多くの取り組みは聞き取りや記録、入居者に関わる職員の姿からも確認された。住み慣れた我が家への帰省や家族・知人をはじめ、大切な人々の来訪や電話・手紙での関係継続をはじめ、地域との交流も一時的なものではなく、継続して行われていることが、入居者の日常をより笑顔にしている。</p>	<p>馴染みの場所やこだわり・趣味の継続など、これからも家族の協力や職員の工夫によって引き続きして支援されることに期待したい。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者の関係性を理解した上で、入居者同士が関われるようにしている。席の位置や家事の内容を工夫してより良い関係が気付けるようにしている。また、職員が間に入り話題づくりにも心掛けている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>ご利用が終了しても関わりを継続できるようにしている。出会えたご縁を大切にご本人やご家族の相談内容に耳を傾け、出来ることを職員で考える姿勢を継続している。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご本人の意向・希望が叶うケアの実践を行っている。一人ひとりに合わせたケアを行い、「その人らしさ」「その方のQOL」等を考えながら日々ケアを行っている。また、今後も思いやりをもったケア基本に努力してゆきたい。</p>	<p>本人の思いや意向が日常生活の中で可能な限り実践できるよう、職員は一人ひとりをよく知るために、寄り添う姿勢、家族との信頼関係に努めている。また、チーム全体で支援することが何よりの充実したケアに繋がることから、職員間の情報の共有を図り、モニタリングには、多くの職員が関わられるよう一週間の期間を設け実施されている。情報の共有を図るために申し送りや会議だけではなく、職員の休憩室の確保や掲示物にも工夫が施されている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>その方らしく生きていただくために、これまでの生活内容を理解し、その方に合った暮らし方を基本に各職員が収集した情報が活かせるよう支援に努めたい。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の記録表を24時間表を活用していることで、食事・睡眠・排泄・余暇の過ごし方・リハビリ等を時間を軸にして記録するようにしている。3ヵ月～6ヵ月毎にモニタリングを実施することで、現状の把握に努めるチームケアを実践している。また、状態に合わせて記録用紙も作り変えて状態把握や連携が図れるようにしている。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的なモニタリングは、期間を設け計画内容のケア全部実施することで、ご本人の満足度を確認している。また、モニタリングの結果をご家族に説明し、ご要望を確認する機会を設けている。常に現状に即した介護計画であるよう心がけ実践している。</p>	<p>モニタリング後はアセスメントを取り直し、書面化している。モニタリングについても家族の同意を得、実際の介護計画書を説明する際も、一時間の余裕をもって丁寧な説明を心掛け承諾を得ている。また、計画作成担当者も日中のケアだけではなく、早出・夜勤業務にも従事することで、入居者の様子や職員の細やかなケアへの関わりがくみ取れると語っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>気づきや変化は個別記録に記載するようにして、情報の共有を行っている。また、日々のケアに反映できるように申し送りを活用し、継続したケアの実践ができるように実践している。状態の把握が行い易いように、排泄は青・水分は赤で色分けしケアに反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご本人やご家族に必要なニーズについては、柔軟に対応できるように、全職員が心がけ多方面から検討するようにしている。医療との連携も不可欠であるため、臨機応変に対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>個々の状態に合わせて、ご本人の力を引き出す生活より安全を守る生活が主体になる方と、地域の資源を活用して生活する方とで二分している。個々が豊かに暮らすことができる支援を今後も続けて行きたい。</p>		

30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の 関係を築きながら、適切な医療を受けられる ように支援している</p>	<p>個々の入居者の馴染みの主治医が診て くださっているため、安心した医療が受け られると感じている。また、往診や受診に も看護師が立ち合い適正な医療がうけら れるよう、状態報告を行っている。より良 い関係を継続出来るよう、今後も丁寧に 対応する。</p>	<p>入居者や家族の意向を尊重し、元々のかかりつけ である馴染みの医師によって支援が行われてい る。受診やホームへの往診には必ず看護師が立 ち会い、入居者の状態を的確に伝えながら不必要 と思われる薬についても医師に提言し、適切な服 薬管理が行われている。結果は家族に報告され、 入居者の現状を共有している。また日々のヒヤリ ハットを集計、分析し事故防止に努めるなど病気 の早期発見やアクシデントの要望対策に尽力して いる。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情 報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護 師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切 な受診や看護を受けられるように支援してい る</p>	<p>ケア上で知り得た新たな情報は、記録に 残すと共に看護師へ相談・報告を行い24 時間体制で迅速に対応している。介護職 員にも、医療について勉強する機会を設 け、入居者に適切な時期に適切な医療が 施されるように日頃より心がけている。</p>	/	/
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、又、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。あるいは、そうした場合に備えて病 院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された場合は、出来るだけお見舞い に行き、入院中の状態も把握できるように 心がけている。このことにより、早期退院 がスムーズにできるように職員全員で協 力している。</p>	/	/
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合いを 行い、事業所でできることを十分に説明しな がら方針を共有し、地域の関係者と共に チームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期の決定は主治医が行うが、出来る だけ早い段階で話し合いが出来るように している。主治医の治療方針とカムさあの 支援体制をご家族に説明し、ご納得いた だけたら実践に移るようにしている。医療 機関ごとに体制が異なるため、直接主治 医と連携の方法等を話し合い、スムーズ な支援ができるよう取り組んでいる。</p>	<p>職員はこれまで、ホームで馴染みの医師に看取ら れたいとする入居者の思いを大切に受け止め、終 末期支援に望んでいる。管理者が担当医師のもと を幾度となく訪れ、連携を図りながら家族や知人、 地域の支援を受けて入居者の最終の場に関って いる。看取り後のカンファレンスで職員アンケート をとり、一人ひとりの関わりや看取り支援で得た事 柄を次にどう生かすかに焦点をあて協議してい る。家族との信頼関係は深く、その後の交流も続 いている。</p>	

34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応は研修会等で学ぶ機会を設けていると共にマニュアルを整備している。しかしながら、職員が緊急時となった場合の実践力に不安を抱いている。そのため、機会があれば、勉強する機会を設け、職員が不安なく対応できるように努めたい。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回に消防訓練を定例化している。地域の自治会や地域自衛消防団と連携しながら実施している。また、防火意識を全職員で持ち、定期自己点検や、屋外の可燃ごみの放置などがないように放火対策にも注意している。昨年の豪雨災害を期に法人をあげて、防災マニュアルの見直しや非常用備品の整備を行っている。</p>	<p>本年度は推進会議の中で消防訓練が実施され、会議メンバーが入居者の代わりとなり、互いに避難の確認をしている。まずは火を出さないよう担当職員による定期点検や、建物周りの可燃物の確認など環境整備に努めている。地区の連絡協議会が備蓄として布団を保管しており、ホームでは食品や水、同系列施設に発電機などを確保している。ホームは2階部分を地域へ開放することなどを申し合わせており、地域貢献にも努めている。</p>	<p>地域との協力体制についても推進会議の中で協議されるなど、災害対策への取り組みが確認され、今後も地域との連携の継続や強化に期待したい。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>個々の生きてこられた人生を理解し、尊敬を持って寄り添えるケアの実践に勤めている。プライバシーや言葉遣い・態度について定期的に研修会を設けているが、常に一定の質を保つことは難しい。職員は、介護する一方ではなく支えあう関係づくりができると入居者への尊厳が自然発生する。このような職員教育を継続させケアの実践に努めたい。</p>	<p>入居者と職員は互いを尊重し、会話を楽しむようにとテレビのないリビングでゆっくり時間を過ごしている。法人の慈愛の精神は支援の中に生かされ、言葉遣いや対応に表出している。個人情報の保護に努め、職員は守秘義務の徹底を図っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>カムさあ理念であるため、ケアの基本にしている。本人の選択・希望を見落とさないよう、表情・言葉に耳を傾けるようにしている。職員が押し付けるのではなく、ご本人が実践できるような自立支援にむけたケアに努める。</p>		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>心身が安定した状況を保つために、できるだけ規則正しい生活が送れるように支援している。食事時間などは決まっているがそれ以外は出来るだけその方のペースで柔軟に対応するように心がけている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>季節ごとにご家族にご協力いただき、おしゃれできるように支援している。また、入居者の理美容や入浴後のスキンケアにも気を配っている。その人らしさの一つに身だしなみがあると考えケアの実践を行っている。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事は楽しみの時間であることを職員は理解している。個々の状態に合わせた役割を担っていただけるように声かけをしている。また、食事の盛り付けやメニュー選びにも参加していただけるよう楽しむ支援になるケアを心がけている。</p>	<p>入居者九名のうち完全常食が三名となったことで一人ひとりへの食事形態を見直し、食品企業でミキサー食の作り方を学び、日々の食事に反映させている。現在、炊飯や汁物、おやつをホームで作り、三週間の検討期間(試し)ののち副食を外部発注としている。入居者が食に関する時間が少なくなったが、芋ほりを保育園児と楽しんだ後はぜんざい作りをするなど食への関りを工夫している。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食生活は身体づくりの基本になるため、過度なカロリー摂取を避け、栄養のバランスを考慮した食事の提供を行っている。飲み物は、数種類用意し、一日1500ml摂取を目標に支援している。内容については記録に残し継続的支援ができるようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、必ず個々の能力に合わせた口腔ケアを実施し、口腔の清潔に努めている。自ら口腔ケアが出来ない方は、ガーゼを手に巻き口腔ケアをおこなっている。口腔内を肉眼で確認し、トラブルがあった場合は歯科につなげている。</p>		

43	(16)	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>トイレで排泄ができるように誘導している。重度化に伴い1人で移乗させれない場合は、2名で対応するようにしている。トイレで排泄できることが、尊厳の保持に繋がると考え支援している。排泄パターンや習慣を熟知しながらケアを行う</p>	<p>職員は入居者が自分の力で排泄できる喜びを後押しし、日中はトイレへの声かけや誘導を行っている。布下着や排泄用品を組み合わせ、なるべく軽量になるよう検討している。各トイレは掃除が徹底し、入居者が気持ちよく使えるよう配慮している。頻階にトイレに立たれる方へもリハビリの一環として見守りを欠かさず、夜間帯もなるべくポータブルトイレに頼らない支援を心がけている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>高齢になると運動量が減り便秘になりやすくなるそのことを職員は理解した上で、食物繊維を多く含んだ食事や乳製品・青汁・水分を多く摂取していただけるように努力している。それでも改善できない方は、定期的の下剤を使用している。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入居者の重度化に伴い、個々の希望日・時間に入浴することが難しく、職員が2名でリフトを活用しないと安全に入浴できない状況である。そのため、曜日を決めているがご本人の状況に合わせて入浴のタイミングを決めている。数種類の入浴剤を用い入浴を楽しんでいただける工夫をしている。</p>	<p>一人の入居者に、週三回は入ってもらうよう支援しており、脱衣所や浴室の環境を整え、安全にゆっくり楽しんでもらうよう心がけている。拒否の方へも時間を見て声かけしながら、入浴の間隔が空かないように工夫している。入浴剤で変化をもたせたり職員との会話が楽しい入浴時間となっている。</p>	<p>身体レベルの低下に伴い浴槽に入る際には複数の職員が介助し、入居者が湯船につかれるよう努めているが、今後を想定しリフトの設置を検討しているところであり、実現が期待される。</p>
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>重度化に伴い、日中に休息を入れないと食事が入らない方がいらっしゃるため個々の状態に合わせた休息の取り方を実践しているが、昼夜逆転にならない程度の時間とし疲労回復に努めている。寝具を天日干しし、できるだけ快適な睡眠になるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員が薬の内容を把握するため、個々の薬事情報をファイルし、どのような薬を飲まれているか理解できる仕組みをつくっている。また、薬は3回確認するようにしており誤薬のないよう職員全員で取り組んでいる。</p>		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化に伴い、全員で外出することは数年前より行っていないが、個々の性格を理解し、役割や楽しみごとの支援に変更している。外出は、個々で対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度に伴い、ご自分から外出の希望をされることがなくなってきた。しかしながら、季節や体調を考慮し外出できるよう行事の計画を行っている。ご家族の協力や地域の皆様の協力を得ながら今後も計画したい。	現在、全員での外出は難しい状態ではあるが、家族の協力を得て植木市や公園へ出かけ、入居者のその日の体調を見ながら三回に分け外食を楽しむなど、外出する機会を作っている。天気の良い日は近隣の散歩や菜園での芋ほり、ウッドデッキで外気浴をするなどホーム周りの資源を活用している。	入居者の希望に応じ定期的に教会への外出に同行し、個人の生きがいとなる支援を継続しており、今後も一人ひとりへの要望に家族と協力しながら取り組まれることに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は個々の能力とご家族との話し合いで支援している。ご家族の協力が不可欠で、外出した際は、お金が使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員は、ご家族や大切な方に対する入居者の気持ちを理解した上で、電話や手紙でのやりとりが出来る支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間づくりを心掛けており、室温・湿度にも気を配っている。リビングには音楽をかけ心地よい環境にしている。また、玄関やリビングには季節のお花を活け季節感を感じれるようにしている。入居者の衣類は、季節にあった服装を選び心地よく過ごしていただける努力をしている。	ホーム駐車場には季節の果物が実り、入居者の散歩コースとなっている。玄関やリビング・洗面台や窓際には可憐な花をかざり、どこにいても心穏やかな空間となっている。併設デイサービスの利用者が手作りしたリビングの椅子カバーは明るいアクセントとなっており、職員が掃除を徹底し、過ごしやすい共有スペースを提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには各種ソファや椅子を用意している。入居者が思い思いに過ごすことのできる居場所づくりを行っている。また、1Fテラスにもテーブル・椅子等を置き、どの空間でもゆっくり過ごせるよう工夫している。		

54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人の馴染みの家具を持ち込んでもらい、落ち着ける居室づくりに取り組んでいる。物の配置はご家族と相談した上で決めている。個人のプライバシーが保たれる居室になるよう今後も努力してゆきたい。</p>	<p>入居時に馴染みの品の持ち込みを家族に説明している。入居者の書や絵の力作、家族写真や植物が飾られた部屋は、窓の位置や部屋の向き、入居者の動線に合わせてベッドや家具の配置を家族と決定している。入居者は外出用の帽子や服、小物などを大切にしながら住み慣れた部屋を大事に使われている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々の力を理解し、わかる工夫やできる工夫をしている。わかる工夫として、日めくりカレンダーやタンスへの表記の実施。できる工夫として、手すりを整備しバリアフリーにすることで建物内を自由に過ごすことができるように工夫している。</p>		